

2022（令和4）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1491000160	事業の開始年月日	平成19年10月1日
		指定年月日	令和1年10月1日
法人名	株式会社カスタムメディカル研究所		
事業所名	グループホーム野の花		
所在地	( 245-0053 )		
	神奈川県横浜市戸塚区上矢部町2115-6		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和4年8月12日	評価結果 市町村受理日	令和5年2月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様の機能維持を目標に入居者様と世の中の出来事、ニュースを話しラジオ体操や手指、下肢の機能訓練を行っています。レクリエーションでは季節に応じた壁画を作成したり、なぞなぞやクイズ、ボーリングなど身体を動かし職員も入居者様も楽しく行っています。天気の良い日は感染症対策を心掛けながら、近隣の公園に散歩に行く日もあります。日々感染症対策を心掛けながら、入居者様が安全に楽しく過ごして頂ける様に支援してまいります。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年11月9日	評価機関 評価決定日	令和5年1月8日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR東海道線または市営地下鉄線の「戸塚」駅よりバスにて約15分、バス停より徒歩5分程の住宅と中小工場があり、近くには散歩に適した公園やおやつの買い物ができる製菓工場があります。

<優れている点>

運営法人の「認知症高齢者を正しく理解し、その人らしい自然な姿で過ごせる家庭的な環境で安全・健康管理に努める」などの基本理念に沿い、事業所独自に「やさしく、丁寧に」を心掛け、整理・整頓などの「5S活動」にも取り組み、日頃のケアの実践につなげています。重度化や終末期には入居者と家族の意向を確認しながらその人らしく最期まで尊厳ある看取り介護を行う体制が確立しています。

新入職員に対してはベテラン職員が日常の仕事をしながら指導し、利用者の介護介助を身につけるOJTの体制をとっています。職員はその日の話題となっているニュースを分かりやすく穏やかな口調で話し掛けたり、なぞなぞやクイズ、テレビ体操、足あげ体操などを一緒に行い大きな声を出して入居者はわきわきあいと日々の暮らしを楽しんでいます。

<工夫点>

食事は運営法人からの献立と食材を基本に、専門職員が手作りで調理して美味しい料理を提供しています。朝食にはパン食もあり、新鮮なフルーツや地元生産のスイカなどを注文し提供しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム野の花
ユニット名	コスモス

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関や各階の事務所の分かりやすい場所に掲示し職員一同周知、実践に努めています。	運営法人の基本理念に沿って、事業所は「やさしく、丁寧に」を心掛けることをモットーにしています。このモットーは玄関と1階・2階の事務室に掲示しています。管理者は新入職員の研修時に説明し、職員は日頃の介護の中で理解を深め実践に繋がっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	天気の良い日は近隣の公園に散歩に出かけています。	町内会に加入しています。コロナ禍前は、春日神社への初詣や、祭礼時の神輿、クリスマスや子どもの日のボランティアのコーラスの来訪など、地域との交流を深めていました。コロナが収束し再開出来るのを待っています。現在は感染症防止のために密になる外出を控え、近隣の散歩に出かけなど、気分転換ができる工夫をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議書面にて、グループホームでの実践の事例を報告しています。認知症の理解を深めてもらっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月に1度、運営推進会議書面にて近隣の方、地域ケアプラザの方、区役所の方にホームの様子を報告し意見を頂いております。	運営推進会議は地域代表、上矢部地域ケアプラザの職員、戸塚区役所職員、家族などをメンバーとして2ヶ月1回開催しています。事業所の運営状況や活動報告を伝え、地域情報を得て意見交換をしています。現在はコロナ禍のため対面会議を中止し、書面報告をしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	区役所の高齢支援課、生活支援課、安心センターの方と連携してケアサービスの内容を伝え、協力関係が築けるように取り組んでいます。	管理者は戸塚区の高齢・障害支援課に利用者の状況報告や相談をしています。介護保険の更新手続きを家族に代わってケアマネジャーが立会っています。運営推進会議には地域ケアプラザの職員が出席し、地域情報を得ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	3カ月に1度、身体拘束委員を設置し、現状身体拘束、(スピーチロックも含め)行われていないか会議をしています。今後、身体拘束の対象となる行為を正しく理解出来るように研修を行う予定です。	身体拘束対策委員会があり、事例を交えて話し合い、職員にはミーティング時に研修を実施し、正しい理解に努めています。言葉の拘束については「やめて」「待って」などを「少しお待ち下さいますか」などと優しく声掛けし、言葉遣いに留意しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員間での話し合いや指摘により防止が出来ている。	職員は虐待防止について、法人研修を受講し、会議で話し合い、正しい理解に努めています。職員は日々の暮らしの中で声掛けに留意しています。	虐待防止に関するファイルも作成し、会議等の議事録を記録し、共有化して虐待防止に努めるように期待されます。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用されている入居者様もいるので今後研修を行っていきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者がご家族様と読み合わせを行いご理解、納得されたうえで契約しております。解約時には十分に相談や質問に対応しております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	感染症対策のため、ご家族様との意見交換は出来ませんが毎月、生活状況をお知らせしております。入居者様の体調の変化等がある時はご家族様に連絡しご意見、ご要望をお聞きしています。	家族の来訪時には声掛けし、意見や要望を聞いて運営面に反映しています。利用者より寿司やピザを食べたいなど食べ物の要望も取り入れて提供しています。入居前に大工仕事をしていた利用者にはカラーボックスの組み立てを頼むなど一人ひとりに合わせた支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度、ユニット会議、カンファレンスを行い意見を出し、話し合いを行っています。 会議以外でも気軽に言ってもらえる雰囲気づくりを心掛けています。	管理者はユニット会議や、朝夕の申し送り時に職員から意見や要望を聞いて運営面に反映しています。職員からの利用者の排便に関することや食事に関する提案や要望も聞き入れています。法人の代表者や担当役員も巡回時に職員から要望を聞いています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者及び上長には事業所訪問をしていただく機会があり、職員の努力や勤務状況を伝えています。 賞与による意欲向上に努めていると思います。	管理者は職員が働きやすい環境づくりに努めています。職員は健康診断を実施し、健康管理にも努めています。特に夜勤者の人には心身の健康維持を保つため健康診断を多く実施しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修では1年間の研修計画に基づき行っています。 新人職員は他の職員からも働きながら学んでいます。	職員は常勤・非常勤を問わず社内研修や外部研修にも参加できるように支援しています。職員は初任者研修や実務者研修を受講し、ベテラン職員が仕事を通じて丁寧に指導し、人材育成に取り組んでいます。今後はオンラインによる研修体制づくりに努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在は感染症対策のため、資格習得の為の研修やグループホーム同士の交換研修は行っていません。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の情報や入居後のご本人様の状況を見て穏やかに過ごせるように配慮し、声掛けや他の入居者様との関係づくりなどを支援しています。 ご本人様の意見やご希望を聞き、ケアプランに反映しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始する段階でご家族と協働し、関係づくりをし困っていることや不安なことなどを共有できるように支援しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族、ご本人様の意見を尊重し、ケアマネージャーや管理者と相談しながら1ヶ月間のケアプランを作成しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	調理のお手伝いや洗濯たたみ等入居者様が出来る事、出来ない事を見極め、職員と一緒にすることでより良い関係を築ける様に支援しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	現在感染症対策のため、面会は制限しておりますが、施設からご家族様に連絡事項がある場合は電話をしその後ご本人様とご家族様がお話しが出来るように支援をしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居時にご本人様のご自宅で使用していた馴染みのものを持参していただいたり、ご本人様やご家族様のご希望があればお手紙や電話を活用し交流が継続できるように支援をしています。	コロナ禍前には入居者は家族と一緒に馴染みの美容院や外食に行ったり、墓参りにも出掛けています。知人や友人には電話による話し合いを支援しています。入居時には、いままで使用していた布団や枕、衣類・クリームなど馴染みのものを使用しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様それぞれの個性を尊重し、入居者様同士がより良い関係が築ける様に支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去が決まった場合は次の生活の場所の相談、支援を行っています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様には日々の生活の中で何気なくホームでの暮らしを聞いてみたり、入居者様の表情によっては居室でお話を内容によってはケアプランに載せ、支援に努めています。	職員は日々の素振りや表情から入居者の思いや意向を傾聴し汲み取っています。「家が心配で帰りたい」と希望する人には時間をかけて納得するまで傾聴し、一人ひとりの思いに寄り添って支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族やご本人様からお話を聞き、馴染みの物を持参していただき、安心して生活できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者様一人ひとりが楽しく安心して過ごせるように毎日の健康管理に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の生活の中でご本人様の思いを聞き、ご家族にも意見を聞き介護職員、ケアマネージャー、看護師と情報を共有し、カンファレンスで話し合い、介護計画を作成しています。	介護計画はアセスメントを基に家族・職員、医師、看護師の意見を参考に作成しています。職員全員でカンファレンスしモニタリングして3ヶ月に1回見直しを行い、6ヶ月ごとに作成しています。入居者の思いや、家族からの要望は電話で聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を介護記録、業務日誌、申し送りノートに残し、情報共有から実践や気づきに努め、介護計画の見直しをしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	変化するニーズにその都度対応できるよう、柔軟な支援に取り組むことに努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	感染症対策のため、地域の方々との交流は控えます。 感染症が落ち着いたら積極的に地域の行事に参加していきたいと思えます。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人様、ご家族様の希望に添えるような体制を築き、適切な医療を受けられるように支援しています。隔週で往診に来ていただいておりますが、時には電話やメールで相談することもあります。外来受診はご家族様が対応できない時は援助をしています。	入居者全員が協力医療機関をかかりつけ医とし、内科医は2週間に1回、歯科医は希望者が訪問診療を受けています。管理者、看護師、ケアマネージャーが立ち合っています。診断結果は、看護師が記録し、職員は受診ノート、家族には受診日より共有しています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常の関わりで得た情報を看護師と共有、相談しております。往診にも立ち会って頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は介護サマリーを作成し、情報提供しております。退院時はご本人様の状態を把握し、ご本人様のペースでホームでの生活に戻れるように支援しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族様、往診医、看護師と情報を共有し連携をとり、現状の把握をし、話し合いご本人様、ご家族様のご希望にも沿いながら、チームでターミナルケアを行っています。	入居時に重度化や看取り介護の指針について説明をしています。職員は運営法人から「看取りの手引き」に従い、「ターミナルケア」を年1回受講しています。看取り介護の経験をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	入居者様の急変や事故に備えて救急マニュアルを作成し、マニュアルに沿って対応しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	感染症対策のため、地域の方の参加は控え、秋に防災訓練を行う予定です。	防災・避難訓練は消防署の協力を得て秋に実施します。訓練では、基本的な事項や消火器の使い方を再確認します。消防署の助言を受けて、地震避難訓練も計画しています。	防災・避難訓練は、日中・夜間を想定した訓練の実施が期待されます。災害発生に備えて食料・飲料水などを備蓄し、保管リストを作成し、賞味期限を確認するように期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとり人格を尊重した声掛けを心掛けています。 接遇の研修を行い、言葉遣いや対応を再確認しました。	「一人の人間として受け入れ」の理念や目標の「優しく丁寧に心をかける」に配慮し基本、敬語を用い接しています。個々の得意や趣味を尊重し、イスの解体・組み立ての大工仕事や、洗濯物干し・たたみなどの役割、将棋、指先作業、出生方言なども大切に支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様が自己決定、自己選択できるような声掛けをしています。希望が叶えられるよう、努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様一人ひとりのペースで無理なく過ごせるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	清潔保持に注意し、その人らしい身だしなみができるように支援しています。ホームでヘアカットを行っています。希望によりお化粧品やヘアピンを購入し使用できるように支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日3食を施設で手作りしています。お誕生月には主役の入居者様の好みを聞き、提供しています。 調理の下準備（もやしの芽取や野菜の皮むき）や食器の片付けなど入居者様が出来る範囲で職員と一緒にしています。	法人の献立や食材を基本に職員が手作りの調理をしています。入居者は玉ねぎやジャガイモの皮むき、もやしのひげ取りなどを手伝っています。目の前で野菜を切る音や料理の香りを感じ、家庭的な雰囲気の中で温かい美味しい食事が楽しめるように提供しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量を記録し入居者様一人ひとりにあった食形態で提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後ご本人様の力に応じた口腔ケアを行っています。 毎週歯科往診があり、口腔内に異常がないか診て頂いております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時の声掛け、誘導を行っています。 自立の入居者様にはお手洗い使用後に小声でお通じの確認をしています。	入居者の「24時間の生活変化シート」を使用し、バイタルサイン、水分、排泄、食事量を記入しています。尿や便の排泄を4段階のマークで記録し健康状態を職員全員で把握しやすいように工夫しています。トイレ誘導の声掛けは定期的にそっと声掛けしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘にならないように水分摂取量にも注意して、起床時には牛乳、10時頃にはプルーンとヨーグルトを提供しています。 往診医、看護師と情報を共有し、スムーズに排泄出来るように取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者様のその日の体調を考慮し、ゆっくりと入浴していただき、コミュニケーションをとるようにしています。入浴の際は身体に傷や発疹等無いか確認もしています。	入浴は週2回で体のかぶれなどの必要にも支援しています。イス、シャワーチェアも用意しています。湯の衛生にも配慮しています。1対1の介助支援で浴槽内での入浴に努め、ゆったりとした気分で入浴出来るように配慮し、会話も傾聴しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	室温の管理や定期的にはリネン交換をし、清潔な環境を提供しています。日中の活動に配慮しながら安心して休息出来るように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人の病状を把握し、薬の目的、副作用、用法、用量に気を付け、服薬時にはご本人様の前で名前の確認をし支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりにあった役割、洗濯干しや洗濯たたみ、食器拭きなど職員と楽しく会話をしながら行っています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は近隣の公園に散歩に出かけています。 玄関先の花壇に水やりをしたり、ベランダで日光浴をしています。 感染症対策のため、入居者様の希望の外出は行っていません。	天気の良い日には、筋力低下防止のために新型コロナウイルス感染に配慮しながら散歩に出掛けています。入居者は外気に触れ、季節を感じています。2ヶ所の公園を一回りし、近所の人に挨拶や、花を貰ったり、馴染みの人の絵を見るなどの外出支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持つことの大切さを理解できるように感染症が落ち着いたときにはお買い物支援を行いたいとおもいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様、ご本人様のご希望に沿って電話、手紙のやり取りの支援をしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の空間を清潔に保ち、入居者様と一緒に作った季節感のある飾りつけをし、居心地よく過ごせるようにしています。	陽ざしが差し込む共用空間は明るく広々としています。職員は5S活動の整理整頓に取り組み、清潔を保っています。壁面には職員と入居者が協力して作成したもみじの切り絵やハロウィンの貼り絵を飾ってあります。入居者はベランダの草花の植木鉢を楽しみ居心地よく過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間でテレビ鑑賞や、塗り絵等思い思いに過ごせるようにし、気の合う入居者様同士がソファで和やかに過ごしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様の思い出の品を飾ったり、馴染みのあるものを置き居心地よく過ごしていただけるようにしています。	介護用ベット、エアコン、照明器具、クローゼットが備え付けられています。タンスにシールを貼り、衣類を出し入れし易いような工夫をしています。馴染みの机・テレビ・布団を持ち込み、壁にぬり絵や家族の写真を飾るなど、落ち着いた居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご本人様が出来ることを活かし、安全に生活出来るように声掛け、見守りの支援をしています。		

事業所名	グループホーム野の花
ユニット名	マーガレット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		○	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関や各階の事務所の分かりやすい場所に掲示し職員一同周知、実践に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	天気の良い日は近隣の公園に散歩に出かけています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議書面にて、グループホームでの実践の事例を報告しています。認知症の理解を深めてもらっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月に1度、運営推進会議書面にて近隣の方、地域ケアプラザの方、区役所の方にホームの様子を報告し意見を頂いております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	区役所の高齢支援課、生活支援課、安心センターの方と連携してケアサービスの内容を伝え、協力関係が築けるよう取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	3カ月に1度、身体拘束委員を設置し、現状身体拘束、（スピーチロックも含め）行われていないか会議をしています。今後、身体拘束の対象となる行為を正しく理解出来るように研修を行う予定です。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員間での話し合いや指摘により防止が出来ている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用されている入居者様もいるので今後研修を行っていききたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者がご家族様と読み合わせを行いご理解、納得されたうえで契約しております。解約時には十分に相談や質問に対応しております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	感染症対策のため、ご家族様との意見交換は出来ませんが毎月、生活状況をお知らせしております。入居者様の体調の変化等がある時はご家族様に連絡しご意見、ご要望をお聞きしています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度、ユニット会議、カンファレンスを行い意見を出し、話し合いを行っています。 会議以外でも気軽に言って頂ける雰囲気づくりを心掛けています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者及び上長には事業所訪問をしていただく機会があり、職員の努力や勤務状況を伝えています。 賞与による意欲向上に努めていると思います。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修では1年間の研修計画に基づき行っています。 新人職員は他の職員からも働きながら学んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在は感染症対策のため、資格習得の為の研修やグループホーム同士の交換研修は行っていません。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の情報や入居後のご本人様の状況をみて穏やかに過ごせるように配慮し、声掛けや他の入居者様との関係づくりなどを支援しています。 ご本人様の意見やご希望を聞き、ケアプランに反映しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始する段階でご家族と協働し、関係づくりをし困っていることや不安なことなどを共有できるように支援しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族、ご本人様の意見を尊重し、ケアマネージャーや管理者と相談しながら1ヶ月間のケアプランを作成しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	調理のお手伝いや洗濯たたみ等入居者様が出来る事、出来ない事を見極め、職員と一緒にすることでより良い関係を築ける様に支援しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	現在感染症対策のため、面会は制限しておりますが、施設からご家族様に連絡事項がある場合は電話をしその後ご本人様とご家族様がお話しが出来るように支援をしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居時はご本人様のご自宅で使用していた馴染みのものを持参していただいたり、ご本人様やご家族様のご希望があればお手紙や電話を活用し交流が継続できるように支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様それぞれの個性を尊重し、入居者様同士がより良い関係が築ける様に支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去が決まった場合は次の生活の場所の相談、支援を行っています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様には日々の生活の中で何気なくホームでの暮らしを聞いてみたり、入居者様の表情によっては居室でお話を内容によってはケアプランに載せ、支援に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族やご本人様からお話を聞き、馴染みの物を持参していただき、安心して生活できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者様一人ひとりが楽しく安心して過ごせるように毎日の健康管理に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の生活の中でご本人様の思いを聞き、ご家族にも意見を聞き介護職員、ケアマネージャー、看護師と情報を共有し、カンファレンスで話し合い、介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を介護記録、業務日誌、申し送りノートに残し、情報共有から実践や気づきに努め、介護計画の見直しをしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	変化するニーズにその都度対応できるよう、柔軟な支援に取り組むことに努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	感染症対策のため、地域の方々との交流は控えています。 感染症が落ち着いたら積極的に地域の行事に参加していきたいと思っております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人様、ご家族様の希望に添えるような体制を築き、適切な医療を受けられるように支援しています。隔週で往診に来ていただいておりますが、時には電話やメールで相談することもあります。外来受診はご家族様が対応できない時は援助をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常の関わりで得た情報を看護師と共有、相談しております。 往診にも立ち会って頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は介護サマリーを作成し、情報提供しております。退院時はご本人様の状態を把握し、ご本人様のペースでホームでの生活に戻れるように支援しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族様、往診医、看護師と情報を共有し連携をとり、現状の把握をし、話し合いご本人様、ご家族様のご希望にも沿いながら、チームでターミナルケアを行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	入居者様の急変や事故に備えて救急マニュアルを作成し、マニュアルに沿って対応しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	感染症対策のため、地域の方の参加は控え、秋に防災訓練を行う予定です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとり人格を尊重した声掛けを心掛けています。 接遇の研修を行い、言葉遣いや対応を再確認しました。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様が自己決定、自己選択できるような声掛けをしています。希望が叶えられるよう、努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様一人ひとりのペースで無理なく過ごせるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	清潔保持に注意し、その人らしい身だしなみが出来るように支援しています。ホームでヘアカットを行っています。希望によりお化粧品やヘアピンを購入し使用できるように支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日3食を施設で手作りしています。 お誕生月には主役の入居者様の好みを聞き、提供しています。 調理の下準備（もやしの芽取や野菜の皮むき）や食器の片付けなど入居者様が出来る範囲で職員と一緒にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量を記録し入居者様一人ひとりにあった食形態で提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後ご本人様の力に応じた口腔ケアを行っています。 毎週歯科往診があり、口腔内に異常がないか診て頂いております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時の声掛け、誘導を行っています。 自立の入居者様にはお手洗い使用後に小声でお通じの確認をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘にならないように水分摂取量にも注意して、起床時には牛乳、10時頃にはプルーンとヨーグルトを提供しています。 往診医、看護師と情報を共有し、スムーズに排泄出来るように取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者様のその日の体調を考慮し、ゆっくりと入浴していただき、コミュニケーションをとるようにしています。入浴の際は身体に傷や発疹等無いか確認もしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	室温の管理や定期的リネン交換をし、清潔な環境を提供しています。日中の活動に配慮しながら安心して休息出来るように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人の病状を把握し、薬の目的、副作用、用法、用量に気を付け、服薬時にはご本人様の前で名前の確認をし支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりにあった役割、洗濯干しや洗濯たたみ、食器拭きなど職員と楽しく会話をしながら行っています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は近隣の公園に散歩に出かけています。 玄関先の花壇に水やりをしたり、ベランダで日光浴をしています。 感染症対策のため、入居者様の希望の外出は行っていません。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持つことの大切さを理解できるように感染症が落ち着いたときにはお買い物の支援を行いたいとおもいます。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様、ご本人様のご希望に沿って電話、手紙のやり取りの支援をしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の空間を清潔に保ち、入居者様と一緒に作った季節感のある飾りつけをし、居心地よく過ごせるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間でテレビ鑑賞や、塗り絵等思い思いに過ごせるようにし、気の合う入居者様同士がソファで和やかに過ごしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様の思い出の品を飾ったり、馴染みのあるものを置き居心地よく過ごしていただけるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご本人様が出来ることを活かし、安全に生活が出来るように声掛け、見守りの支援をしています。		

2022年度

事業所名

作成日： 令和 5年 1月 29日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	7	虐待防止に関するファイルも作成し、会議等の議事録を記録し、共有化して虐待防止に努める様に期待されます。	話し合いをし、議事録作成、ファイル保管し、職員間で共有する。	身体拘束対策委員会と同様に事例を交えて話し合いミーティング時研修を実施し正しい理解に努めます。議事録作成・ファイル保管し、職員間で共有し、虐待防止に努めます。	12ヶ月
2	35	防災・避難訓練は日中・夜間を想定した訓練の実施が期待されます。災害発生に備え食糧・飲料水などを備蓄し保管リストを作成し、賞味期限を確認するように期待されます。	年2回の防災訓練実施、飲料等の備蓄保管リスト作成する。	春、夏に防災・避難訓練を実施します。食料、飲料水などの備蓄品を揃え保管リストを作成し、賞味期限を確認し、ローリングストックを行います。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月